

ふたばっ子とともに

R6. 7. 11

1学期も残すところあと2週間を切りました。

7月に入り気温が急激に上昇して、真夏の暑さに悩まされる毎日です。そうした中でも、子供たちは、明るく元気よく学校生活を送っています。

きっと、日々の活動の中に「楽しみ」を見出し、「楽しさ」を感じているからこそ、そうした姿が見られるのではないかと考えています。

今回は、最近の6年生の姿を見ていて、感じたこと、考えたことがありました。それをお伝えします。

「『やりたいこと』を見つけて、挑戦する」

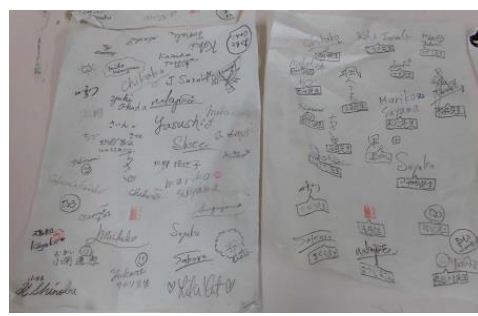
－ 6年生の姿から－

1 先生のサイン集め大作戦

6月の終わりごろから、1年生が生活科「先生となかよし」の学習で、双葉小の先生方のところへ行って、自己紹介をしたり、先生の好きなことやものを尋ねたりする活動をしています。それぞれの先生とお話をした印として「先生のサイン」をもらいます。

ペア学年の6年生は、その姿を見ていて「自分たちもやりたい」と思い、担任の先生に相談しました。「やりたいのならばやってみれば。」ということで、子供たちは動き始めました。

わたしは、校長室や廊下で「先生のサインをください。」と声を掛けられ一人一人に1年生と同じ「サイン」をしました。何人かの子に、「なぜ、サインを集めているの？」と聞くと、ある子は「1年生がもらっているのを見ていたら、欲しくなったから。」と答え、またある子は「友達がやっているのを見て、私もやりたいと思ったから。」と答えました。



6年生の入学年度は、平成31年。その年の12月頃から世の中がコロナ禍に入りました。よく考えてみると、この子たちが1年生の時は、まだコロナ禍前…ということは、自分たちの時も「先生と仲良くなる活動」は、生活科で経験しているはずです。それをサイン集めに来た6年生に確認してみると「はい、やりました。」と言いました。では、なぜ???

職員と考え出した答えは、次の通りです。

6年生は、現在の1年生と同じように(もしかしたら、今よりもOPENで大胆に)生活科をはじめとする様々な活動を経験していました。

でも、それは1年生の2月までの話。

あの「全国一斉休校」の指示が出された3月以降、2、3、4年生の3年間と5年生の5月8日まで、つまり3年と2か月は、マスク着用を基本として人との距離を意識的にとり、制限が掛けられた活動や我慢を強いられた場面ばかりの学校生活を送ってきました。

5年生となり、5月からマスクの着用が個人判断となり、学校の様々な活動が形や考え方を新しく変えながらも、次第に制限なく行えるようになる「再開の1年間」を過ごしました。

令和6年度、最上級生になって、ようやく「やりたいこと」を素直に「やりたい」と言えるようになり、「やりたい」と思ったり考えたりしたことを躊躇することなく行動に移すことができるようになった子供たち。それが、かわいいペア学年の1年生が取り組んでいる「先生のサイン集め」だったのです。

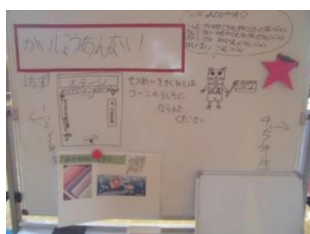
本校は、「『やりたいこと』を見つけて、挑戦する子」を目指す子供像としています。6年生の活動は、その姿を表していると言えます。「やりたいこと」を一つ形にした6年生が、今後、どのような「やりたいこと」を見つけ、挑戦を続けていくのか。とても楽しみです。

2 セタイベント

今、双葉小学校は、本校の伝統的・中核的活動である「キッズチャレンジビジネス」を、新たな形にしようと再編成の真ただ中にあります。

(「キッズチャレンジビジネス」についての詳細は、双葉小学校 Blog ホームページ 2023 年を参照。2023 年の本活動当日は 12 月 7 日(木)です。)

昨年度の6年生が、製品づくりの素材となる「遠州綿紬」について、自分たちの理解を深めるとともに、それを全校のみんなに広めようと7月に「遠州綿紬」の端切れを使って「セタイベント」を開催しました。(「セタイベント」についての詳細は、主に、双葉小学校 Blog ホームページ 2023 年 7 月 7 日及び 7 月 11 日を参照。)



今年度の6年生は、1年前、5年生としてそのイベントに参加しました。今年は「キッズチャレンジビジネス」を進める当事者。すでに「遠州綿紬」との出会いを済ませ、12月の販売活動に向けて動き始めています。

実は、5年生の時、卒業した6年生から手作りの「キッズチャレンジビジネス」に関する「実施マニュアル」を受け取りました。その活動記録には、7月の「七タイイベント」のことが記されています。

6月初旬に、担任の先生が、子供たちに「七タイイベントはやるの？」と問い掛けました。考えてみれば、そもそもこのイベントは、昨年度の6年生が「やりたい」という思いを持ち、それを実行に移した活動です。今の6年生から湧き出てきたものではありませんから、そこに思い入れや前向きな気持ちがないのは当然のこと。イベント開催日までは1か月しかないし、キッズチャレンジビジネスでの販売に向けて試作品作りもあるし、校外学習も控えているし…と、全体の空気としては、自然と「やらなくてもいい」となるはずでした…が、多数決を取ってみると「やりたい」が多数。



そこで、その後、どのようにイベントを行うかについて、子供たちが本音をぶつけ合う、真剣な話し合いが行われたそうです。その話し合いが、実は「なんとなく賛成」で手を挙げた子たちに、「これは本気で取り組まなければ…」と思いを新たにさせることへつながったということでした。

「やる」となったら、エネルギー全開で真剣に熱く取り組めるのは、ふたばっ子共通の輝きの1つ。そこから、わずか1か月足らずでイベントの準備を進めました。

7月5日(金)の昼休み、「たなばたさま」の歌が流れる体育館には、ほぼ全員じゃないかと思えるくらい大勢の下級生が集まり、6年生が用意したそれぞれのブースで、話を聞いたりクイズに答えたりして楽しんでいました。

西都台小学校からいただいた笹に、願いを書いた短冊を結び付けるコーナーでは、それぞれに自分の願いを丁寧に書いて、遠州綿紬の端切れで枝に結び付けている子供たちが見られました。

昨年度を超えるイベントの盛況ぶりに、このひと月の6年生の頑張りと力、そして大きな成長が感じられました。

みんなで話し合って、納得して、全員共通の「やりたいこと」にして取り組んだ「七タイイベント」の成功は、6年生に、また一つ確かな誇りと自信になりました。

「やりたいこと」を見つけて、「やりたい」と声をあげたり、動き出したりした時、周りの子たちが「いいね、それ。やってみなよ。」と後押ししたり、応援したりしてくれる。中には、「僕も一緒にやっていい?」「私も手伝いたいんだけど、いいかな?」と賛同したり、協力したりしてくれる子もいる。そうした友達との関係性が、今の双葉小には築かれつつあります。

仲間の思いやりの心や優しさに認められ、励まされて、子供たちは、自分の「やりたいこと」に積極的に挑戦し、満足感や達成感を得ながら、少しずつ自信を深めています。

今回、6年生の「サイン集め」を取り上げたのは、そうした「『やりたいこと』を見つけて、挑戦する」ために必要な条件とともに、様々な経験や学びを積み重ねることで、その条件が整いつつある6年生の成長をお伝えしたかったからです。

また、「セタイイベント」は、思いやりと優しさを大切にして相手に接することができるようになってきた6年生の集団が、「協力」することの素晴らしさを示してくれました。

小規模校とはいえ、限られた時間の中で全校対象のイベントを企画、準備、運営していくのは、簡単ではありません。前年度踏襲というわけではなく、今年度の6年生のイベントは、昨年度の規模を大きく上回るものでした。

おそらく「昨年度のレベルでは満足できない」と考えた子供たちが、それぞれに自分の役割を一生懸命こなし、結果、下級生や先生方を楽しませるイベントを成功させました。担当ブースで接客する6年生の顔は、どの子も真剣で、とても嬉しそうで、その上、自信に満ち溢れていました。私は、その顔を見ているだけで、本当に幸せな気持ちになりました。きっと、この経験は、12月に行う「キッズチャレンジビジネス」の成功へと繋がっていくはずです。

6年生が、思いやりと優しさにつつまれ、自信と勇気をもって「『やりたいこと』を見つけて、挑戦する」姿を、全校のみんなに示している双葉小学校。

まだ、ようやく1学期が終わるところです。これから、6年生だけでなく様々な学年で、どんな輝く姿が見られるのか。楽しみは、膨らむばかりです。

